

南アフリカ産 巨大海藻エキス 海からの贈り物 人と地球にやさしい環境保全型農業に

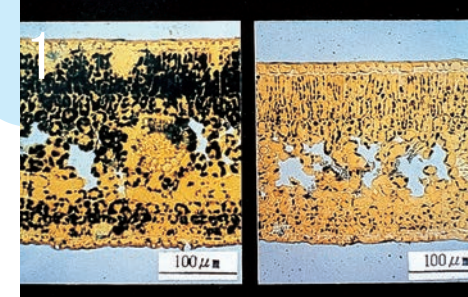


生育が旺盛・健全になり、根量が増え光合成能が高まります。

海からの贈り物 **ケルパック66** の特長

効果その1 光合成能が高まります。

葉緑素が増え、葉が厚くなるため光合成能が高まり糖の蓄積が進みます。



1：みかんの葉の横断面（愛媛大学・白石教授）
左・500倍液 1回土壌処理
+3000倍液3回葉面処理区
右・無処理区
処理区では光合成能が高まるため葉が厚くなり、澱粉の蓄積（黒点）が多くなります。



2：ゆり（長崎県）
左2列・無処理区
右2列・500倍液1回灌水区
処理区は葉緑素が増えるため、葉は濃緑となり、株全体に勢いがあります。

効果その3 生育が促進されます。

光合成能が高まり根量が増えるため、生育が旺盛になります。葉は厚く、茎は太く丈夫な作物ができます。また、花芽の着生がよくなります。



7：水稻・ササニシキ（宮城県桃生郡・日野農場）
田植え：平成10年5月1日
ウェット粒剤処理：5月3日
左・ケルパック66処理区
右・無処理区
処理区の根は、根数、根量とも多く、太く、長い。また茎が太く、緑色が濃い。
平成10年5月13日撮影



8：いちご（農林水産省野菜茶業試験場久留米支場）
左・無処理区
右・3000倍液散布区



7の試験は、上記7'を経て下記7"に至る。平成10年8月21日撮影

効果その5 品質が向上し、増収します。

ケルパック66を使用した作物は、最終的に品質が良くなり増収します。

7'：水稻・ササニシキ（宮城県桃生郡・日野農場）
処理区の方が茎葉および穂の光沢が良く、穂が重い。平成10年9月19日撮影
左・ケルパック66（ウェット粒剤）処理区
右・無処理区（左の圃場隣）
収量：564kg、食味計（サタケ）：82
7"：水稻・ササニシキ（宮城県桃生郡・日野農場）
左・無処理区
収量：500kg、食味計（サタケ）：76



10：りんご（さんさ）／長野県上田市 麻栲園
葉が巻き込み立ち上るため、果面に当る光量が増え、着色がよくなり糖度が上がります。

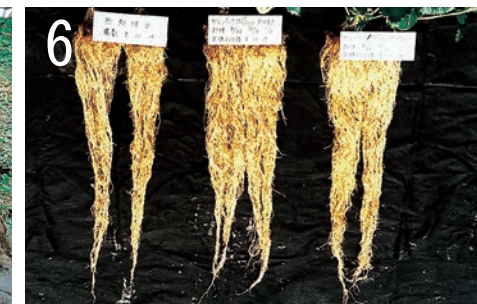
3：山東菜（電力中央研究所）
左・無処理区
中・1500倍液100ml 1回灌水区
右・1500倍液100ml 2回灌水区



4：ぶどう挿し木（山梨県果樹試験場）
左・挿し木時に1000倍液1回灌水区
中・アミノ酸有機液肥100倍液1回灌水区
右・無処理区



5：梨苗木（栃木県農業試験場）
左・原液3ml／樹灌水（水1ℓにうすめ）
中・原液1ml／樹灌水（水1ℓにうすめ）
右・無処理区



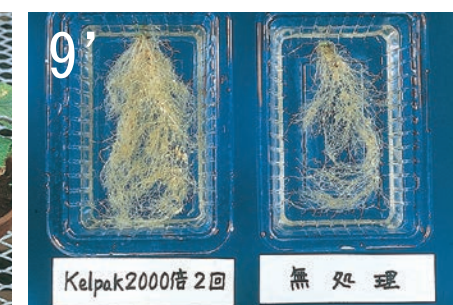
6：いちご・女峰（静岡県農業試験場）
左・無処理区
中・原液100ml／10aを1000倍にうすめ灌水
右・原液150ml／10aを1000倍にうすめ灌水

効果その4 線虫の被害が軽減されます。

本資材には殺線虫力はありませんが、次から次へと補償根が出るため線虫が寄生しても地上部への影響は少なくて済みます。根菜類以外の地上部を収穫する果菜類、葉菜類の有機栽培、減農薬栽培に適した資材です。



9：きゅうり（千葉大学園芸学部植物病理学・平野教授）
左・2000倍液500ml 2回灌水区
中・2000倍液500ml 1回灌水区
右・無処理区



9'：きゅうり（千葉大学園芸学部植物病理学・平野教授）
左記（9）きゅうりの根の状態
左・2000倍液500ml 2回灌水区の根
右・無処理区の根

11：みかん（温州）／佐賀（JA松浦東部）
着色がよくなり、糖度が上がります。また樹勢が回復するため隔年結果がなくなります。



12：トマト／栃木県芳賀町
着果が良くなり、成り疲れなく、空実果が少なくなります。また、秀品率が高まり、増収します。



13：トルコキキョウ／長野県
ロゼット打破効果有り。生育がそろい、草丈がよく伸び、鮮明な大輪花が咲きます。



増収、食味・品質向上に。



ケルパック66とは

原料海藻の「エクロニア・マキシマ」には、アミノ酸、ミネラル、ビタミン、多糖類、植物ホルモンなど 66 種類にも及び成分が含まれており、植物ホルモンの中でも特にオーキシシン様物質が多いことが知られています。それらの複合作用で生育が旺盛・健全になり、根量が増え光合成能が高まります。また、本海藻に含まれるポリフェノールの一種「フロロタンニン」が高温等のストレス耐性を増し、「ポリアミン」が花粉管の伸長などにプラスに働くことが期待できます。

さらに、この海藻中の成分をできるだけ損なわず取り出すため、熱や化学物質を使用することなく、低温下で圧力差を利用して抽出する特許製法「コールド・セルバースト方式」を採用することで原料の持つ効果・効能と相俟って唯一無二の海藻バイオスティミュラントとなっています。

ケルパック66液体成分表（原液1ℓ中の含有量w/w）

◆多量・微量要素

粗蛋白	2.0g
炭水化物	12.0g
リン酸	8.0g
カリウム	5.0g
窒素	3.5g
カルシウム	0.5g
ナトリウム	0.5g
硫黄	0.4g
マグネシウム	150.0mg
鉄	8.0mg
ヨウ素	6.0mg
マンガン	5.0mg
亜鉛	2.5mg
バリウム	1.5mg
フッ素	0.2mg
ニッケル	0.2mg
モリブデン	0.2mg
ホウ素	0.15mg
コバルト	0.2mg
銅	0.1mg

◆アミノ酸

アラニン	150mg
セリン	140mg
プロリン	92mg
スレオニン	84mg
リジン	80mg
ロイシン	72mg
バリン	70mg
グリシン	70mg
オルニチン	63mg
チロシン	60mg
フェニルアラニン	60mg
アルギニン	48mg
イソロイシン	40mg
グルタミン酸	35mg
アスパラギン酸	31mg
ハイドロキシプロリン	27mg
メチオニン	25mg

◆植物ホルモン

オーキシシン様物質	11.0mg
サイトカイニン様物質	0.031mg
ジベレリン	痕跡程度
A C C (エチレン前駆体)	痕跡程度

◆ビタミン類

B ₁ 、B ₂ 、C、E、葉酸、 ナイアシン、カルシウムパントテン酸、 痕跡程度

*天然物ですので収穫時期等により成分は多少異なります。

ケルパック66はこのような時にお使い下さい。

移植時の活着促進に。根の一層の伸長を図りたいときに。

樹勢回復、草勢回復に。成り疲れ防止に。

低温、日照不足時に。徒長防止に。

果実の肥大、着色、うまみ、糖度、硬度を高め、増収を図りたいときに。

花の色を鮮明にし、高品質の大きな花を咲かせたいときに。

水稻の食味アップ、増収に。倒伏軽減、イモチ被害軽減に(*1)。

(*1) 生育が旺盛になりケイ酸吸収がよくなるため、葉や茎などの表面にケイ化細胞が形成され硬化するからです。

ダニ被害葉の蘇生回復に(*2)。

(*2) 根・葉からの養分吸収がよくなるために赤茶けた被害葉に緑が戻り樹勢が回復します。

注意事項

- 過剰施用すると生育を抑制することがあるので、ご注意ください。
- 冷暗所に保管し、飲用に供さないこと。
- 全ての肥料・農薬と混合可。

日本バイオスティミュラント協議会自主基準に基づく表記	
BS 製品の分類	海藻抽出物
BS の主たる効果・効能	養分及び水分吸収・光合成改善 収量・秀品率改善

ケルパック66の使用方法

- 表中の処理時期又は処理方法に **A**、**B** とある場合は、いずれか都合の良いものを1つ選んで処理して下さい。
- スペースの都合上、ここには代表的な使い方のみを記載しました。各作物に対する詳しい使い方については、資料を差し上げますのでご請求下さい。

作物	処理時期	処理方法	原液処理量	使用（処理）倍率	回数
水稻	緑化期と 田植え 1～3 日前	灌水	1 ml / m ² (マット 5 枚当たり)	1000～2000 倍	育苗期 2 回
	田植え時～ 穂ばらみ期	散布、ペースト肥料と混用、 または水口から流し込み	200～300 ml / 10 a	—————	本田 1～2 回 代わりに「ウエット粒剤」 を散布してもよい
麦・ とうもろこし	2～3 葉期	葉面散布	100 ml / 10a	500～1000 倍	1 回
	幼穂形成 10～14 日前	葉面散布	120 ml / 10a	500～1000 倍	1 回
	出穂期～登熟前期	葉面散布	120 ml / 10a	500～1000 倍	1 回
大豆・小豆・ いんげん・絹さや・ そらまめ・落花生	3～4 葉期	葉面散布	100 ml / 10a	500～1000 倍	1 回
	着蕾 10～14 日前	葉面散布	150 ml / 10a	500～1000 倍	1 回
トマト、ピーマン、 なす、オクラ、 メロン、西瓜、 きゅうり、カボチャ 等の果菜類	鉢上げ時	灌水	—————	8000～10000 倍	1 回
	定植直前	ポットへ灌水	—————	5000～6000 倍	1 回
	定植時処理から 3～4 週たった	A 葉面散布 B 土壌処理	70～100 ml / 10a 120～150 ml / 10a	2000～3000 倍 2000～10000 倍	2～3 週おきに 5～9 回 (メロン、西瓜等 4～5 回) 2～3 週おきに 5～10 回 (メロン、西瓜等 3～6 回)
いちご	ランナー採り時間	葉面散布	—————	3000 倍	9～10 回
	定植時	A 根部浸漬 B ポット灌水	—————	3000 倍 10000 倍	1 回 1 回
	定植後マルチ前 1 番果・2 番果が親指大のとき 1 番果・2 番果収穫後及びそれ以後	土壌処理	120～150 ml / 10a	3000～10000 倍	3～4 週おきに 6～8 回
葉菜・根菜・ ねぎ・ビート	直播栽培： 2～3 葉期以降	葉面散布	生長に合わせ 70、100、 120 ml / 10a と増量する。	1000～2000 倍	2～3 週おきに 2～3 回
	移植栽培：定植時	A ポット浸漬（灌水） B 根部浸漬	————— —————	5000 倍 2000 倍	1 回 1 回
	定植時処理から 2～3 週後とそれ以降	葉面散布	100～130 ml / 10a	1000～2000 倍	2～3 週おきに 2～3 回
馬鈴薯	種子消毒時	タネいも瞬間ドブ漬	—————	1000 倍	1 回
	本培土直播（ストロン伸長停止後） 2 週後	葉面散布	130 ml / 10a 150 ml / 10a	800 倍 700 倍	1 回 1 回
さつまいも	たね芋伏せ込み時期	苗床灌水	—————	8000～10000 倍	1 回
	定植時	さし穂浸漬	—————	1000 倍	1 回
	定植 3～4 週後	葉面散布	150 ml / 10a	700～1000 倍	1 回
やまといも・ こんにゃく	定植時	タネいも瞬間ドブ漬	—————	無発芽いも：1000 倍 発芽いも：3000 倍	1 回
	A 定植時処理から 4～5 週後とそれ以降	葉面散布	生長に合わせ 70、100、 150 ml / 10a と増量する。	1000～2000 倍	3～4 週おきに 2～3 回
	B 芽が地上部に現れたとき	株元灌水	350～400 ml / 10a	1000～2000 倍	1 回
草花	播種、挿し木床	灌水	—————	5000～10000 倍	1 回
	定植時	灌水	—————	5000～6000 倍	1 回
	定植時処理から 3～4 週たった	A 葉面散布 B 土壌処理	30～40 ml / 10a 125～150 ml / 10a	2000～3000 倍 —————	1～2 週おきに 7～10 回 3～4 週おきに 3～4 回
球根	：定植時	球根浸漬	—————	2000～3000 倍	1 回
	ゆり：5～10 葉期	土壌処理	250～300 ml / 10a	500～3000 倍	1 回
	：花芽分化期	葉面散布	—————	2000 倍	1 回
その他の球根：2～3 葉期以降		葉面散布	100～120 ml / 10a	1000 倍	2～3 週あけて 2 回

ばら	定植時または 採花直後	A 葉面散布	—————	3000 倍	1 ヶ月おきに 2～3 回 効果が出たら 2 ヶ月位 処理を休む
		B 土壌処理	300 ml / 10a	—————	3～4 ヶ月おき
らん	定植時	A 株全体浸漬 B 灌水	————— —————	3000 倍 5000 倍	1 回 1 回
	定植時処理から 2 ヶ月 位たった	灌水	—————	水苔床の場合： 20000 倍 礫の場合： 5000～6000 倍	2 ヶ月おき 効果が出たら 2～3 ヶ月処理を休む
落葉果樹 (りんご、桃、梨、 柿、栗等)	3～4 月	表土灌水	1 ℓ / 10a	適宜薄めて (土の湿り具合によって)	1 回
	開花直後と結実時	葉面散布	—————	1000～3000 倍	2 回
	幼果期～収穫 1 ヶ月前	葉面散布	—————	1000～3000 倍	月 1 回程度
	収穫後	葉面散布	—————	1000～3000 倍	1 回
さくらんぼ	3 月	表土灌水	1 ℓ / 10a	適宜薄めて (土の湿り具合によって)	1 回
	開花 50%の時と落弁期	葉面散布	—————	1000～3000 倍	2 回
	落花直後～収穫 1 週間前	葉面散布	—————	1000～3000 倍	2～3 回
	収穫後	葉面散布	—————	1000～3000 倍	1 回
ぶどう	発芽前	表土灌水	1 ℓ / 10a	適宜薄めて (土の湿り具合によって)	1 回
	展葉期～開花期	葉面散布	—————	1000～3000 倍	2～3 回
	幼果期～収穫 1 ヶ月前 (樹勢を見て)	葉面散布	—————	1000～3000 倍	2～3 回
	収穫後～落葉	葉面散布	—————	1000～3000 倍	1～3 回
柑橘類	3月下旬・6月 (発根期)	表土灌水	—————	3000 倍	各 1 回
	収穫後～6月	葉面散布	—————	2000 倍	毎月 1 回
果樹苗木	植え付け時 / 移植時	株元灌水	—————	1000～2000 倍	1 回
茶	A 2～3 月	表土灌水	0.5～0.7 ℓ / 10a	土に湿り具合によ って 300～ 3000 倍表土灌水	1 回
	B 2～3 月と摘採直後	葉面散布	—————	3000 倍	各 1 回
樹木	春先又は移植時	株元灌水	0.3～50 ml / 本	1000 倍	樹高により処理量 を変え年 1 回
芝	春先から	葉面散布	0.1～0.15 ml / m ²	1000～3000 倍	3～4 ヶ月おきに 3 回
養液栽培	—————	循環式、掛け流し式	—————	10万～15万倍	1～1.5 ヶ月おきに 加用

- ケルパック66処理時に、以下の製品を加用していただくとさらに効果が高まります。

カルシウム不足には 当社の有機酸カルシウム剤 『カルビタ』、『カルビタ-PK』、『カルマグホウ素PK』、『カルビタ-MPK』、『カルビタ-P』の何れか1つ。着色・肥大促進には『色一番E』。初期生育促進・樹勢回復には『元氣一番』。成り疲れ防止、旨味強化には『アミノマリーン』。

- 水稻用ケルパック66には本田処理用の『ウエット粒剤』もございます。